



発行
北海道函館水産高等学校
北のくにづくり2017
真酒谷準斗・坂田和希

北前船に引導を渡した学校

今年四月二十八日、江差町単独と松前町他十町村の「北前船」をモチーフにした二件が「日本遺産」として登録された。私達は「北前船とは何か」を水産高校の視点で探ってみた。

明治十三年、開校間もない函館商船学校は、函館港でスクーネル型帆船によるレースを主管した。開催目的は、北海道開拓使の「今後、五百石以上の帆船を作る場合は西洋型風帆船にさせる」という思想が大きく関係していた。

この時のレースは当時の新聞に連日報道され、函館中央図書館で今でも読める。並み居る北前船の船員を前にして行われたこのレースは、スクーネル型帆船の素晴らしさを伝えるのに大変効果があった。ハンドリングの簡便さ、風上に対する上り性能の良さ、どれをとっても北前船を凌駕した。



江差町役場にかかる横断幕



箱館型スクーネル「箱館丸」レプリカ

このレースで走ったスクーネルは函館に船籍のある船で、英国人トムソン造船所・辻造船所・続造船所が作った船だった。記念すべき優勝艇は続造船所が作った船で、小林重吉が所有する船だった。ちなみに小林重吉は、函館商船学校の創立者である。

続造船所は高田屋嘉兵衛の造船所で、腕を磨いた続豊治の造船所で、豊治は、開港後、箱館に入ってくる外国船を研究し、日本で最初の民間人による西洋型風帆船「亀田丸」「箱館丸」を作り、これらの船は「箱館型スクーネル」と呼ばれ、現在、レブリカが函館市大町に展示してある。

余談になるが、このレースの優勝賞品は、当時、箱館で商売を営んでいた英国人ブラキストンが提供した、晴雨計（気圧計）だった。当時、百円で豪邸が建った時代に、三百円もする晴雨計を提供したのだ。ブラキストンは箱館で蒸気機関による製材所を経営していたので、船主はお得意様であり、賞品を頒発したのは、ビジネスの面もあったのかもしれない。全部で六回を数えたこの帆船レースは、ブラキストンのアメリカ移住を機に終了している。

「日本の商船教育、特に機関士教育は心許ないので、(自分が所有する)旋盤・各種航海計器等を函館商船学校に寄贈してほしい」と遺言を残し、実際に寄贈された。この記事もスコットの葬儀の模様と共に函館中央図書館で読める。当時、日本人船長で船の保険会社が認められる船長は少なく、ほとんどが雇い外国人船長だった。それが、西洋型帆船を取り入れ、商船教育が行われ、世界の海に出て行くきっかけは、このレースにあったのかもしれない。残念なのは、近年、商船・漁船の土官希望者が激減していることだ。

驚き、近代戦を北前船が支えた

一八九四年(明治二十七年)に始まった日清戦争で、朝鮮の仁川(じんせん)に上陸した日本軍は、仁川を武器弾薬・食糧の補給基地とした。この時の写真が残っている。びっくりしたのは、補給に従事する船のほとんどが北前船だということである。明治二十七年になっても北前船は当たり前になっていた。日本が初めて体験する近代戦なので、船はたっぷり大型の鋼鉄船だと思っただけ、それがちがうとは驚いた。



仁川に集結する北前船(インターネットから引用)

「真鱈(まども)の風」は…… まともでないッ

帆は「船の真後ろからの風」(「真鱈の風」という)を受けるとスムーズに走ると誰もが思うが、実際に帆で走ると「恐怖感が一番強い走り」だそう。穏やかな風なら「真鱈」でも何てことはないが、強風になれば、巨大な波が真後ろから襲い、激突した波は舵を破壊し、挙げ句の果てに船は巨大波の腹に乗ると、サーフィンを始める。「サーフィン?! 楽しいじゃない」というのは間違い、波に乗った船は舵効きが悪くなり、横転の危険が増すとのこと。

この横転を防ぐために北前船の乗組員は、1辺が両手幅もある帆柱の根元を切断し、無事を神に願ったという。漂流民のほとんどはこの事故だ。

現在に受け継がれる北前船の形

左の写真3枚を見てほしい。上から、北前船「長福丸」模型、次が函館の名人舟大工、故「平石健悦さん」が手掛けた「七福神丸」。一番下が、函館住吉漁港で撮影したFRP船。いずれも船尾右舷・左舷の側板がせり上がって鱈(とも)へ突出している。これは、北前船に代表される大和型和船の特徴であり、それを今に伝えているもののひとつだろうと思う。

次に、津軽海峡をはさんだ地域の木造和舟は、舟の底板を2枚に割り、その2枚を繋いで底板にする「むだまはぎ」と呼ばれる。底板の中央部は掘られ、くり抜き舟のような底板になる。北前船の構造を調べて驚いたことは、一番最初に据え付けられる底板は「瓦」と呼ばれて、「むだまはぎ」の底板と似ている。大和型船の造船技術は、縄文人やアイヌの人たちが使用した「くり抜き舟」から進化したものと思像できる。



「むだまはぎ」の底板断面



「北前船」の瓦断面

北前船を今後どう生かすか

「日本遺産」に登録された江差町・松前町・函館市は、北前船の史跡・文化がたつぷり残り、どの切り口から展開しても、日本遺産の目的を果たせると思う。ただ、現在のところ、登録はもったが、目に見えて活動がスタートしたとは思えない。誰が、いつ・どのような形でアクションを起こすのか。素材が多いから、かえって絞り込みが大変じゃないかと思う。



「どんぐり形」だが、見る角度によつては、アメリカズカップ艇に劣らない、とてもスマートで格好いい船だ。



残念なことは、今までお店に展示であった「北前船」の模型が撤去されたり、販売していた「北前船Tシャツ」が店頭にはばなくなったりしたことだ。「北前船はカッコいい」のに、北前船は船にかかる税金対策上、横幅が異常に長い、「どんぐり形」

北前船に関連する「ことば」



ほまち

年配者が使う。「臨時収入」を意味する言葉。「帆待ち」と書き、北前船が風待ちのために港へ入港し、乗組員が土地の産物を仕込み、他で売った時の差額は、全てこの乗組員の収入になることから生まれた。

どっちに加担したらいいかなど、様子を見る時に使われる。大手の北前船は港々に天気判断してくれる代理人を雇っていた。代理人は小高い所に登り、明日の出港の是非を判断した。この小高い所を「日和山」といい、宮城県の高松原の「日和山」といい、宮城県の高松原の「日和山」とい……は有名。



ひよりみ



せいよう

函館市下海岸では、船結びのことを「せいよう」と呼ぶ。本当のことはわからないが、1854年にペリー艦隊が箱館に来航した時、珍しい結び方だと地元民がそれを覚え、以来、その結び方を「西洋結び」といったのが始まりではないかと思う。

座談 北前船の光と影

坂田 大航海時代がニシン漁と関係した事実を衝撃を受けました。そういうことを教科書は教えてくれません。■ヨロッパと日本における「船の発達とニシン」ということで考えてみたいと思いますが、何かありますか
眞瀨谷 江戸時代は秀吉の時代とちがって、鎖国政策をとりました。結果として、海外渡航できる船を作ることができませんでした。
坂田 ペリーが「日本遠征記」に、「日本の船はワグデザインで、設計図は日本全国ほぼ一緒。舟大工の頭の中にある」という記録を残しているくらいです。
■同じニシンに関係する船でも、ヨーロッパと日本ではこんなに違うんですね。
眞瀨谷 先ほどニシンノボリという話が出ましたが、ノボリの普及で近畿地方を中心に木綿栽培が盛んになりました。庶民の服は麻から柔らかい木綿になったそうです。木綿は明治になっても絹と並んで日本の輸出品の主力商品になりました。
反面、ニシンノボリを作る時に、大量の糞を必要とし、ニシン漁場周辺の山は次から次と木が伐り出され、「先げ山」になったそうです。
坂田 江差町に隣接する厚沢部町の海岸に「砂坂海岸林」という国有林があります。この海岸林はニシンノボリ作りで潰滅し、砂が風で飛び、稲作農家は大変苦労したそうです。国有林として海岸林を復旧するに大変な費用と月日を使ったそうです。そういう海岸林も、現在は田んぼの一部に巨大な風車が林立し、太陽光

発電施設ができ、時代の皮肉を感じます。
坂田 全く知らなかった北前船の存在が身近になりました。北前船は物だけでなく文化も運び、今でも北海道の祭りや民謡に生きているものも思い当たりません。皆が海や船に関心を示したらいいなと思います。

現在、ニシンノボリを作る時に、大量の糞を必要とし、ニシン漁場周辺の山は次から次と木が伐り出され、「先げ山」になったそうです。
坂田 江差町に隣接する厚沢部町の海岸に「砂坂海岸林」という国有林があります。この海岸林はニシンノボリ作りで潰滅し、砂が風で飛び、稲作農家は大変苦労したそうです。国有林として海岸林を復旧するに大変な費用と月日を使ったそうです。そういう海岸林も、現在は田んぼの一部に巨大な風車が林立し、太陽光

発電施設ができ、時代の皮肉を感じます。

函館市

「北前船」史跡探訪



嵐島神社 (函館市弁天町)

弁天町にある嵐島神社には北前船主から寄進された史跡がある。

方位石 (写真右) 嘉永7年に寄進されたもの。方位は十二支で刻まれ、東西南北が正確に据えられている。

手水鉢 (写真下右) 「大阪 昆布屋 廻船中」の寄進。嘉永10年、大阪の「さか」が「坂」の時代の物。

鳥居 (写真下左) 「加州横立浦 廻船中」が「天保8年」に寄進。



鳥居



手水鉢



方位石

江差町 にある廻船問屋「横山家」は、舟からの荷揚げに便利な住宅構造を今に残している。



松前町にある道の駅「北前船」の地先にある北前船の係留石と埠頭。埠頭の石垣に使われている石は、北前船がバラストとして積んできた福井県福井市足羽山産の「勢谷石」。松前城の石垣にも使われている。



坂田 函館中央図書館から借りた「港町の景観形成」に関する本です。江差は舟の荷物を舟からすぐ倉庫に入れられる家並が特徴ですが、函館は石垣の景観が特徴的だそうです。
眞瀨谷 私は、「ニシンが築いた国オランダ」という本を読みました。オランダが海洋国家として絶大な地位を築けたのは、北海道のニシンとタラシにあったからです。
■ニシンですか。北前船もニシンのノボリを近畿に運び、木綿栽培を興しましたか。
眞瀨谷 オランダの場合、大抵の北海道で安全に漁業するには、堅牢な船が必要で、オランダは「フルート船」「キヤラック船」という船を作り、独壇場になったそうです。
■イギリスも太刀打ちできなかったのですか。
眞瀨谷 造船技術では後れをとったそうです。
坂田 凄いなと思ったのは、この時にオランダが作った船のお陰で大航海時代が始まったことです。
■そういうえば江戸時代、鎖国をしていても日本が交易していた相手はオランダでしたね。
坂田 大航海時代がニシン漁と関係した事実を衝撃を受けました。そういうことを教科書は教えてくれ

ません。
■ヨロッパと日本における「船の発達とニシン」ということで考えてみたいと思いますが、何かありますか
眞瀨谷 江戸時代は秀吉の時代とちがって、鎖国政策をとりました。結果として、海外渡航できる船を作ることができませんでした。
坂田 ペリーが「日本遠征記」に、「日本の船はワグデザインで、設計図は日本全国ほぼ一緒。舟大工の頭の中にある」という記録を残しているくらいです。
■同じニシンに関係する船でも、ヨーロッパと日本ではこんなに違うんですね。
眞瀨谷 先ほどニシンノボリという話が出ましたが、ノボリの普及で近畿地方を中心に木綿栽培が盛んになりました。庶民の服は麻から柔らかい木綿になったそうです。木綿は明治になっても絹と並んで日本の輸出品の主力商品になりました。
反面、ニシンノボリを作る時に、大量の糞を必要とし、ニシン漁場周辺の山は次から次と木が伐り出され、「先げ山」になったそうです。
坂田 江差町に隣接する厚沢部町の海岸に「砂坂海岸林」という国有林があります。この海岸林はニシンノボリ作りで潰滅し、砂が風で飛び、稲作農家は大変苦労したそうです。国有林として海岸林を復旧するに大変な費用と月日を使ったそうです。そういう海岸林も、現在は田んぼの一部に巨大な風車が林立し、太陽光

発電施設ができ、時代の皮肉を感じます。
坂田 全く知らなかった北前船の存在が身近になりました。北前船は物だけでなく文化も運び、今でも北海道の祭りや民謡に生きているものも思い当たりません。皆が海や船に関心を示したらいいなと思います。

坂田 全く知らなかった北前船の存在が身近になりました。北前船は物だけでなく文化も運び、今でも北海道の祭りや民謡に生きているものも思い当たりません。皆が海や船に関心を示したらいいなと思います。

坂田 函館中央図書館から借りた「港町の景観形成」に関する本です。江差は舟の荷物を舟からすぐ倉庫に入れられる家並が特徴ですが、函館は石垣の景観が特徴的だそうです。
眞瀨谷 私は、「ニシンが築いた国オランダ」という本を読みました。オランダが海洋国家として絶大な地位を築けたのは、北海道のニシンとタラシにあったからです。
■ニシンですか。北前船もニシンのノボリを近畿に運び、木綿栽培を興しましたか。
眞瀨谷 オランダの場合、大抵の北海道で安全に漁業するには、堅牢な船が必要で、オランダは「フルート船」「キヤラック船」という船を作り、独壇場になったそうです。
■イギリスも太刀打ちできなかったのですか。
眞瀨谷 造船技術では後れをとったそうです。
坂田 凄いなと思ったのは、この時にオランダが作った船のお陰で大航海時代が始まったことです。
■そういうえば江戸時代、鎖国をしていても日本が交易していた相手はオランダでしたね。
坂田 大航海時代がニシン漁と関係した事実を衝撃を受けました。そういうことを教科書は教えてくれ

ません。
■ヨロッパと日本における「船の発達とニシン」ということで考えてみたいと思いますが、何かありますか
眞瀨谷 江戸時代は秀吉の時代とちがって、鎖国政策をとりました。結果として、海外渡航できる船を作ることができませんでした。
坂田 ペリーが「日本遠征記」に、「日本の船はワグデザインで、設計図は日本全国ほぼ一緒。舟大工の頭の中にある」という記録を残しているくらいです。
■同じニシンに関係する船でも、ヨーロッパと日本ではこんなに違うんですね。
眞瀨谷 先ほどニシンノボリという話が出ましたが、ノボリの普及で近畿地方を中心に木綿栽培が盛んになりました。庶民の服は麻から柔らかい木綿になったそうです。木綿は明治になっても絹と並んで日本の輸出品の主力商品になりました。
反面、ニシンノボリを作る時に、大量の糞を必要とし、ニシン漁場周辺の山は次から次と木が伐り出され、「先げ山」になったそうです。
坂田 江差町に隣接する厚沢部町の海岸に「砂坂海岸林」という国有林があります。この海岸林はニシンノボリ作りで潰滅し、砂が風で飛び、稲作農家は大変苦労したそうです。国有林として海岸林を復旧するに大変な費用と月日を使ったそうです。そういう海岸林も、現在は田んぼの一部に巨大な風車が林立し、太陽光

発電施設ができ、時代の皮肉を感じます。
坂田 全く知らなかった北前船の存在が身近になりました。北前船は物だけでなく文化も運び、今でも北海道の祭りや民謡に生きているものも思い当たりません。皆が海や船に関心を示したらいいなと思います。

坂田 全く知らなかった北前船の存在が身近になりました。北前船は物だけでなく文化も運び、今でも北海道の祭りや民謡に生きているものも思い当たりません。皆が海や船に関心を示したらいいなと思います。

「七福神丸」ペーパークラフト